

福祉コミュニティエリア整備事業 事業計画書 (概要版)

計画立案者 (代表法人) 医療法人社団善智寿会

個々の多様性に合わせて、お互いを理解しあい、支え合うことができる地域を。
そして、生まれ育った街で最期まで安心して生活できる地域を。

【グランド・コンセプト】

住まう人みなそれぞれが自分らしく暮らし、
そして互いに支え合う地域づくり

【エリア名称】

函館日吉コミュニティエリア
愛称：「コンテ日吉」

方針1 住まいや医療・介護・予防・生活支援のサービスを一体的に提供できるまちづくり

- 地域包括ケアシステムの考え方にに基づき、住まいや医療、介護、予防、生活支援のサービスが一体的に提供される仕組みづくりを行います。
- 健康増進、疾病の発症予防のための支援を中心に、専門家や関係機関の協力のもとで、住民と一緒に実施してまいります。
- 在宅療養支援診療所を中心に、住み慣れた地域で継続した医療や介護が受けられる体制、24時間安心した生活が送れる医療や介護サービスの提供を行なってまいります。

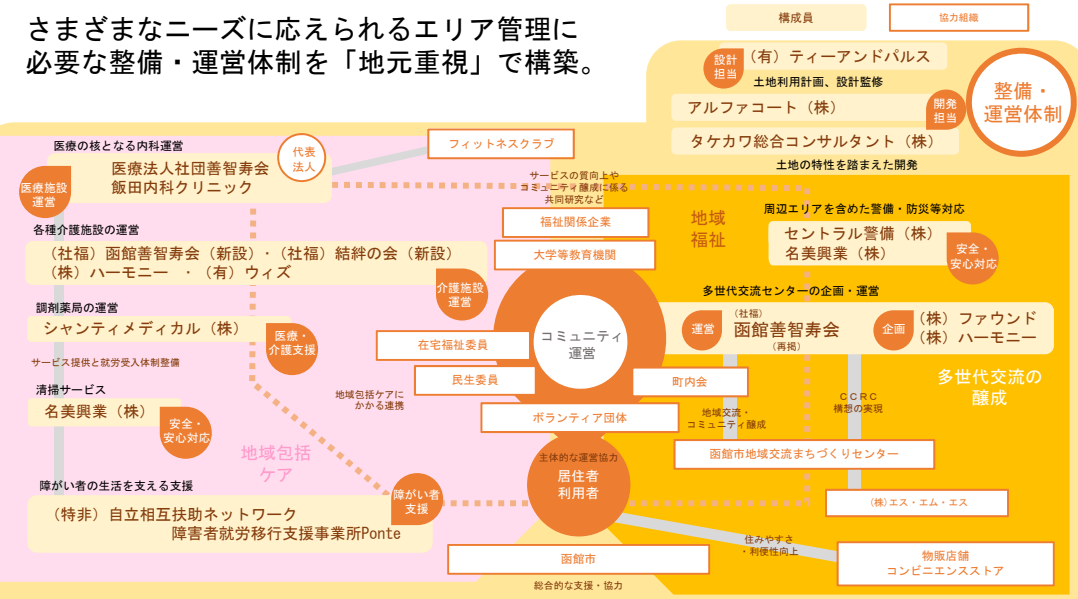
方針2 年齢や障がいの有無に関係なく、誰もが安心して自分らしく暮らせるまちづくり

- 子供からお年寄り、子育て世代などが自然と交流できるまちづくりを行います。
- 多世代交流施設で市民参加型の企画などを行い、高齢者、障がい者、多世代が交流できるコミュニティの形成を行います。
- 顔の見える関係性の中で防災・防犯にも取り組み、安心して暮らせるまちづくりを目指します。

方針3 支え合い、みんなが活躍できるまちづくり

- 個人の特性や多様性を認め合いながら、相互に支え合い、住民が主体となって活動できるよう、環境整備と仕組の運用に取り組んでいきます。
- 各種施設の運営や様々な企画に、地域住民等に積極的に参画してもらい、住民主体の地域福祉を実践してまいります。
- 地域住民、ボランティア、社会福祉法人、各事業者が地域の一員として支え合い、密接なコミュニティを構築していくための仕組みづくりを行います。

さまざまなニーズに応えられるエリア管理に必要な整備・運営体制を「地元重視」で構築。



緑豊かな中央公園を囲うように、各施設を配置。
だれもが安心して、こころ豊かに過ごすことができるよう
バリアフリーに配慮した空間づくりを。
そして、にぎわいが生まれる工夫を随所に。



エリアに活気を生み出す「楽しい」遊歩道

保育園側にある街区公園と自然な繋がりを持たせる遊歩道を敷設。ストリートアスレチック器具やベンチを置き、子どもの笑い声が生まれるなかで、高齢者も一緒に適度な運動ができる空間となるよう配慮します。



福祉コミュニティエリア整備事業 事業計画書

計画立案者 (代表法人) 医療法人社団 晋音 晋寿云

住まい

- ・ライフスタイルに合わせて多様な世帯が住むことができる**宅地開発**。
- ・子育て世帯想定**の宅地は、コンパクトで購入しやすい区画に分離**。
- ・高齢者想定**の宅地はCRCの体験入居受入の拠点に**。

ターゲット	住戸数・人口等	一般的な区画面積及び分譲価格帯
子育て世帯 高齢世帯	宅地エリア 98区画、294人 福祉エリア 14戸、24人	区画面積 180㎡ 分譲価格 520万円台～

道路・公園・その他

- ・憩いの場として中央公園や街区公園を配置します。
- ・介護施設に不可欠なサービスが円滑に行えるよう、エリア外周にサービス用道路を敷設します。
- ・周辺施設や地域の防災・避難情報を一括して管理し、エリアにあった防災計画を策定します。

- ①中央広場と遊歩道 ②街区公園
- ③ストリートアスレチック器具 ④エリア内道路
- ⑤共同駐車場 ⑥セキュリティ会社

地域包括ケアシステムを構築するために展開するソフト事業

誰もが同じ地域で、安心して長く生き生きと暮らすための多様なサービスを提供

- ・365日、24時間体制の医療・看護サービス提供を実現
- ・在宅を基本としつつ、状況やニーズに合わせた介護施設を活用し、住み替えによる同一地域居住を実現
- ・施設や地域の情報を一元管理し、適切なケア・対応につなげる体制を整備
- ・医療施設やフィットネスクラブと連携し、健康増進にかかる様々なメニューを提供
- ・ボランティア養成を進め、様々な場面でサポートしてもらい、地域一体で住み良い地域づくりを推進

世代や特性を越えた多様な交流が生まれる企画を実施

- ・多目的スペースなどを活用し、エリア内外の方に向け集客交流を目的としたイベント等を開始
- ・障がいや認知症その他、様々な特性に対する理解を促し、皆で支え合っていくための場を創出
- ・子どもや学生などが集まる機会を積極的に創出し、誰もがエリア内を活性化

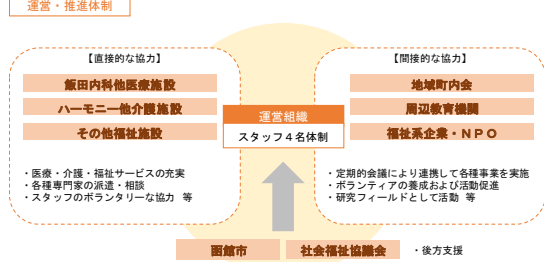
多世代交流施設を拠点として、多様な人材を運営組合がコーディネート

- ・多世代交流施設をコミュニティの中核として、エリア内の多様な施設を効果的に活用
- ・専門性のある人材やボランティアなどを、情報発信センタースタッフが適切にコーディネート

【包括ケアシステムのイメージ】



【ソフト事業の運営・推進体制・運営資金確保方策】



交流・地域支援の施設

【名称】交流センター「コンテ日吉」

- ①**地域コミュニティの拠点（集う場所としての機能）**
会議室やイベントスペースのほか、飲食スペースなども設置し、エリア内外の人が出入りするコミュニティの拠点として整備します。
- ②**地域社会のコーディネート（交流を生み出す企画・運営機能）**
ボランティア育成のほか、周辺地域の方も含めて楽しく過ごせるイベントなどを企画・運営し、エリアの人的交流を活性化させます。
- ③**地域福祉コンシェルジュ（専門アドバイザーとしての機能）**
福祉の専門アドバイザーとして多様な福祉相談に対応します。関連組織と連携しながら、ワンストップで対応する窓口となります。
- ④**高齢者、障がい者就労、ボランティア受入窓口（生きがい創出機能）**
就労支援センター機能を併設し、高齢者や障がい者の就労支援や、健康者の福祉ボランティアの斡旋などを行います。

【施設の内容】

コミュニティ運営組合による自主運営
①コミュニティサポートセンター ②就労支援センター ③活動室・会議室 ／インキュベーションスペース ④多目的スペース
他事業者と連携して運営
⑤キッチンスタジオ ⑥コミュニティ・カフェレストラン
テナントとして誘致
⑦クリニック／調剤薬局
①院内保育の設置 ②託児所の設置 ③子どもの地域活動の実施

子育て世代が安心して暮らせるよう、託児スペースや託児所などを設置します。また、隣接する「函館福祉児童保育園」と連携・協力し、多世代交流施設等を活用しながら、エリア内の高齢者や障がい者との交流などを図ります。

医療・介護・障害・福祉サービスなどの施設

- ・健康増進的な視点も含め、多様な世代が日頃から健康を保つのに必要な医療サービスを提供できる施設を設置します。
- ・24時間体制で在宅できる体制を構築します。また、訪問看護や薬局による在宅医療支援なども提供し、「いつでも」「どこでも」適切な医療サービスを提供します。

- ①内科クリニック（飯田内科クリニック）
- ②小児科クリニック（誘致予定）
- ③歯科クリニック（誘致予定）
- ④調剤薬局（ジャンティメディカル）
- ⑤フィットネスクラブ（誘致予定）

- ・「ユニットケア」を提供し、個別の対応をしています。
- ・診療所、訪問看護との連携により、医療のニーズが高い利用者の受け入れ、看取り介護の提供が可能な施設運営を行います。
- ・心身の状況に応じた「住み替え」をすることを可能とします。
- ・「福祉避難所」としての機能を満たします。

【入居相談への適切な対応・エリアとの関わり方】

- 広域での地域福祉コンシェルジュ対応
- 地域社会の福祉コーディネート機能による連携・共助

- ・高齢の方や障がいのある方などに対するサービスを提供します。
- ・障がい者の就労支援情報の提供やマッチングなどを行います。
- ・エリア内での障がい者・高齢者雇用を積極的に推進します。

- ①障がい者就労移行支援（自立相互扶助ネットワーク）
- ②一般就労支援およびボランティア養成・斡旋

健康づくり・介護予防・生活支援サービスなどの施設

- ・高齢で身体が不自由な方や、家事・育児・仕事に手一杯な方など、生活の中で何らかの手助けがほしい方に、多様な生活支援サービスが提供される環境整備に努めます。
- ・管理栄養士やレストランシェフなどが中心となってメニューを考案し、地域の人たちに「美味しい」そして「健康な」食を提供します。
- ・健康運動指導士や理学療法士の指導のもと、日々の運動・身体活動を積極的に促して、地域住民の健康増進を推進します。

生活利便施設

- ・日常的な買い物ができる施設を誘致するなど、利便性が高まるよう配慮します。
- ・「はたらく」ことを通じて生きる喜びを感じてもらえるよう、高齢者や障がい者の就労支援と連動し、雇用の受け皿となりうる施設を積極的に誘致します。

- ①家事・自費介護サービス（拠点は未定）
- ②レストランサービス（キッチンスタジオノコミュニティ・カフェレストラン）
- ③フィットネス等身体活動促進サービス（フィットネスクラブ）

- ①物販店舗 ②コンビニエンスストア
- ③セキュリティ会社 ④清掃会社

生涯活躍のまち（日本版CRC）構想の取組

【基本的な考え方（共通必須項目・選択項目）】

	共通必須項目	選択項目
入居者	①入居希望の意思確認 地域コンシェルジュが丁寧に対応。 ②入居者の健康状態 健康な段階からの入居を基本としつつ、どのような方も柔軟に受入れます。 ③入居者の年齢 住み替え、エリア内就労などを想定し、50代以上を中心に対応を入れます。	①入居希望の住み替え形態 「広域コンシェルジュ」を想定します。 ②入居者の所得等 一般的な退職者を基本とします。 ③入居者の属性 北海道居住に慣れを持ち、かつ都会的な利便性もある程度必要と考える都心部の外に、観光的な側面も含め、当該エリアでの暮らしをアピールします。
立地・居住環境	④地域社会・交流・連携 交流センターを中心に多くの事業を実施。 ⑤自立した生活ができる居住空間 住宅・就労・生きがいづくりを兼ね備え、医療・介護体制の整備。 ⑥生活全体のコーディネート センターを中心に、スタッフ、ボランティアが地域での居住をサポート。	①立地 「まちなか型」となります ②地域の広がり 「タウン型」を想定します。 ③地域資源の活用 隣接する運動公園の活用や大学との連携などを積極的に展開します。
サービスの提供	⑦居住支援への支援 コーディネートによるマッチング、体験居宅企画などを行う。 ⑧健康でアクティブな生活の支援 シニアライフプランの作成支援などにより、生涯活躍をサポートします。 ⑨「継続的ケア」の提供 多様な医療・介護・福祉体制により入居者の最終段階まで確かなケアを行います。	⑩住宅サービス エリア内に多様な居住形態を用意することで、ニーズに応えていくほか、エリア内の引越しなどの際に地域の「お助け隊」などがサポートします。 ⑪就業・社会参加支援サービス等 コミュニティサポートセンター内で地域内での一般就労支援を推進するほか、ボランティア育成にも取り組む。地域で生き生きと暮らすための支援を行います。
事業運営	⑩入居者の事業への参画 エリア運営にあたっては、居住者が主体的に関われるよう仕組みを構築します。 ⑪事業運営や仕組の情報公開 地域コンシェルジュ機能で、周辺情報も含めて一元管理・提供します。	⑫多様な事業主体の参画 それぞれに得意分野を持つ多様な事業主体が連携してエリア運営にあたります。市内の地域交流におけるコーディネート機能を果たしている函館市地域交流まちづくりセンターなどとの積極的な連携を図ると、広がりのある事業運営を行っています。

【KPIの設定】

KPI	当該エリアへの首都圏からの視察人数（体験ツアー含む含むべ数）	移住者数（移住外からの転居者数）	シニアライフプランの作成数
当面の目標値	20人 (平成31年度実績)	50人 (平成31年度実績)	30件 (平成31年度実績)

【移住促進に向けた具体的取組】

STEP1 知ってもらう

最初のステップとして、このエリアで実現可能なシニアの暮らし方をわかりやすく伝えるホームページや冊子などを作成し、函館市や函館市地域交流まちづくりセンター、北海道などと連携しながら、外部に発信していきます。

STEP2 来てもらう

高齢社会に適した様々な情報サービスを運営する株式会社エス・エム・エスや、函館市地域交流まちづくりセンターなどと連携して、当該エリアの紹介や移住促進に向けた取り組みを積極的に展開していきます。
また、函館の高いブランド力を活用し、観光を兼ねた「移住体験ツアー」を企画し、エリア内に数日滞在してもらい、周辺施設の状況や体制についての説明などを受けながら、定住をイメージしてもらうような取組も検討していきます。

STEP3 活躍してもらう

移住・居住をされた方、あるいはしたいと考えている方に対し、スタッフがヒアリングを行いながら、当人の考える希望や期待、健康状態や嗜好などを踏まえ、「シニアライフプラン」を作成し、目標と計画を持って当該地域で生活できるよう、アドバイスやサポートを行うことができる体制を構築します。